エリザベート・ドレクセルさん

の理事を務め、同大学に留学

が出席していた。1人は財団

話は1950年代初頭にさ

その授賞式に、シュツット

きたんだ」

経験をもつ東海大学教授の内

カーだった。| 自転車の後輪に

の届かない限界があった。そ づくりには、工夫だけでは手

りされた

の原因の一つが、工作機械だ

当時のホンダは二輪車メー

しい」と断じた。

敗戦から7年の日本のもの

独シュツットガルト大学の教 ガルトに思い入れのある2人 授が、ドイツ人として初めて

郎が設立した本田財団は、毎 を贈っている。1990年、 年、優れた科学技術に本田賞 ホンダの創業者、本田宗一 夢を見とどけた首飾り くと、宗一郎がいた。 は式の途中、内田の背中を突 然バーンとたたいた。振り向 「内田さん、ドイツの工作

に本格的に取りかかるのは、

目動車分野参入の夢の実現

た。真珠の首飾りをいただき

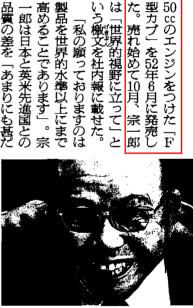
彼女は、40年から83年まで

に大量輸入した工作機械の中 その後だ。だが、実は50年代

ト・シャウトの秘書を務め シャウト社の創業者ゲルハル

エリザベートは宗一郎のた

ね。その昔、シュツットガル 機械は世界で一番良かった トに行って、どっさり買って 型カブ」を52年6月に発売し 50cのエンジンをつけた「F 製品を世界的水準以上にまで は「世界的視野に立って」と た。売れ始めて10月、宗一郎 いう檄文を社内報に載せた。 髙めることであります」。 宗 郎は日本と英米先進国との 私の願っておりますのは



に、二輪車の生産には不要だ

が自動車の生産には必要なも のが含まれていた。開発はひ そかに始まっていた。

トガルトを訪れている。マン 島レースを視察する帰途に欧 く、宗一郎も54年にシュツッ 河島を派遣しただけでな

> 真珠の首飾りを買ってきた。 れたビロードの箱に入った、

60年代初頭に来日した際

車を手配した。そのお礼に宗 めにドイツ国内のホテルや列

郎は「東京・銀座」と書か

車組み立て工場を回り、欧州 州の工作機械メーカーや自動

いまくるものだから、びっく **河島はシュツットガルトに** 「若造が高額な機械を買 世紀末にゴットリープ・ダイ シャウト社も訪れた。 の実力を確かめた。その時に シュツットガルト周辺は19

社から20十一西にはダイムラー いた自動車への夢を膨らませ た自動車の聖地だ。シャウト 宗一郎はその地で、秘めて ツットガルトを走る。「首飾 に交じって自動車の聖地シュ ーツカーを世に出した。 ダは63年、軽トラックとスポ

ホンダの車は今、ドイツ車

械が必須だと宗一郎は考え

流をつくるには、一流の機

筒形の部品の内側を研磨する

ソリンエンジン車を生み出し

ムラーとカール・ベンツがガ

シャウトに伝えたという。約 ます」。宗一郎は感謝の念を

ったら第一号に乗ってもらい

自動車生産を始めていなかっ いる。この時、まだホンダは シャウトは宗一郎と再会して

た。「ホンダが自動車をつく

東は実現しなかったが、ホン

工作機械などのメーカーだっ

あったシャウト社から、20台

ず」と言ったのは昔の譬え」。 った。「『弘法は筆を選ば

たのだろうか。 現地に住むエリザベート・

年度の売上高11億円のホンダ には巨額の投資だった。

欧州のマン島レースに59年初

参戦し、61年には125ck

して欧州に買い付けに行った する完全優勝を果たした。

宗一郎の指示で設計課長と 250mクラスで上位を独占

だ。資本金1500万円、52 的には4億5千万円に膨らん

用意した金は3億円。最終

界一」を見据えた。当初は一

選んだ筆で、宗一郎は

輪車だった。世界的に有名な

のことを覚えている。「なに ドレクセル(8)は今も宗一郎

しろ初めて会った東洋人でし

りをもらった人の会社がこん

なに大きくなるなんて。すば

わらずエリザベートの元にあ らしい」。その首飾りは、